

東三河の「山」

ロードバイクで巡る





温泉から秘境へ

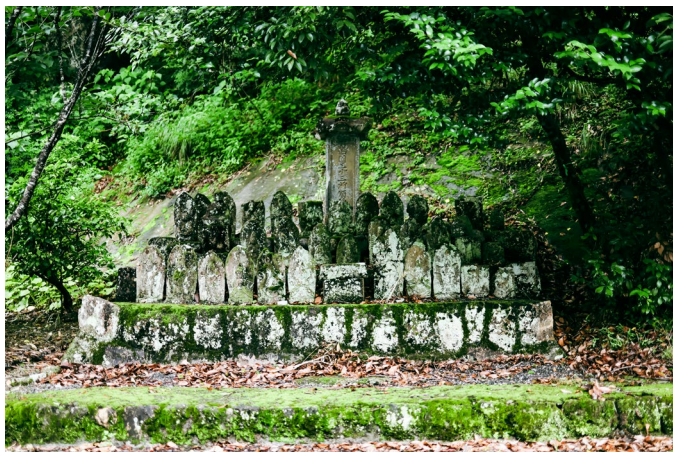
同じ距離を走るにしても、輪行を駆使することで行動範囲がぐっと広がる。湯谷温泉から飯田線を北へ。コンクリートのトンネルと緑のトンネルを繰り返すうちに山は深くなっていく。愛知県から静岡県を経て長野県へ。遠くまで来た。遠くから走るワクワク感に包まれる。





天竜川としてぐり

飯田線の為栗（してぐり）駅で下車。どこで降りるかは走力とスケジュールに合わせて決めればいい。駅利用者専用の吊り橋を渡ると、そこから山間部を南下するライドがスタート。湯谷温泉までたっぷり登りを含んだ114kmの旅が始まった。



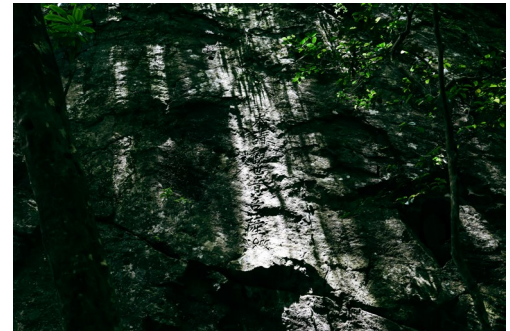
緑とモノクロの世界

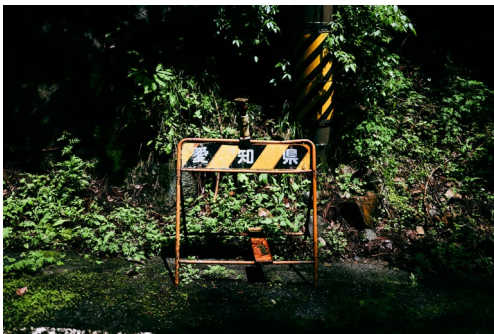
山間部の携帯電話のネットワークはお世辞にも抜群とは言えないが、その分しっかりライドに集中して距離を伸ばしていく。アスファルトに落ちる影のコントラストが美しい。木々に覆われた山道は、緑が加わったモノクロの世界。



茶畑を7回曲がる

巨石に刻まれた三十三所観音を通過すると視界が開け、天竜川を見下ろす中井侍のお茶畑に出た。「七曲がり」という名前も納得。日当たりの良い急峻な斜面に7ヶ所のヘアピンコーナーが刻まれている。





大入川の鮎

登っては下る。相変わらず山は深く、愛知県に入ってから
登っては下る。鮎釣りの聖地であることを主張する真っ赤な
幟が、太陽に照らされた緑の山々に映える。





交通量の少なさは正義

アスファルトに落ちた白い花が、数台の車両に踏みつけられただけで残っていた。「交通量の少なさ」はサイクリストにとって正義。そういえば長い時間ずっと車両とすれ違っていい。補給のために道の駅 豊根グリーンポート 宮嶋に立ち寄り、こちらもサイクリストにとって正義の炭水化物を摂取する。



川のせせらぎだけ

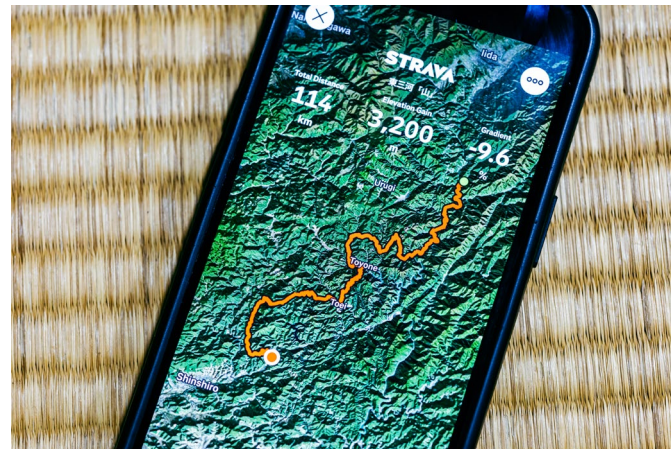
仏坂峠に向かって御殿川に沿った溪谷路を遡上する。耳に入ってくるのはタイヤの接地音とチェーンの駆動音、そして川のせせらぎだけ。釣り好きにとっても魅力的なロケーション。溪流魚が好みそうな落ち込みや淀みを見ていると峠にたどり着いた。





棚田と廃線と五平餅

映えスポットとして人気が出るのも納得の四谷の千枚田と豊橋鉄道田口線の廃線跡を駆け抜けると、フィニッシュの湯谷温泉はすぐそこ。最後に鳳来寺山の参道にて、注文してからじっくり焼いてくれる名物の五平餅を食べる。甘辛いタレが染みた。



ロードバイクで巡る東三河の「山」

撮影:辻啓／岩崎竜太

発行:東三河県庁(愛知県東三河総局)

